

「ふるさと春日井学」研究フォーラム

Forum for Furusato Kasugai Studies

「ふるさと春日井」地域活性化・まちづくりへの応援
メッセージ

会報

NO. 15

2014.5.21発行

編集責任：河地 清

Kawachi-k@ub.ccnw.ne.jp

第14回「ふるさと春日井学」研究フォーラム

テーマ『下街道の歴史遺産』

～鳥居松の歴史と飯田重蔵別邸（郷土館）について～

5月4日（日）市民活動支援センター「ささえ愛センター」において第14回「ふるさと春日井学」研究フォーラムをテーマ『下街道の歴史遺産』と設定してフォーラムを行った。

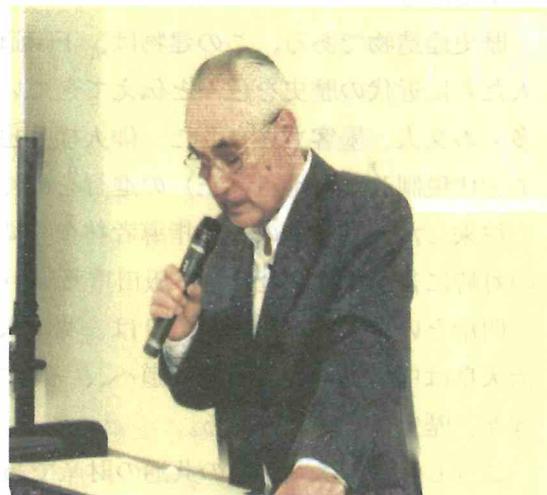
一つ目は、春日井市古文書研究会会長 近藤 雅英 氏が『鳥居松の歴史』と題して、地名の由来を中心にして、鳥居松の歴史について発表があった。二つ目は、春日井郷土史研究会会長・春日井市文化財友の会会長・春日井市文化財保護審議委員である、村中 治彦 氏が『下街道の文化を伝える郷土館』と題して、郷土館の誕生から今日までの歴史と、歴史遺産である「郷土館」の今後について問題提起があった。

参加者は、報道（CC ネットケーブルテレビ）関係者も含めて35名であった。

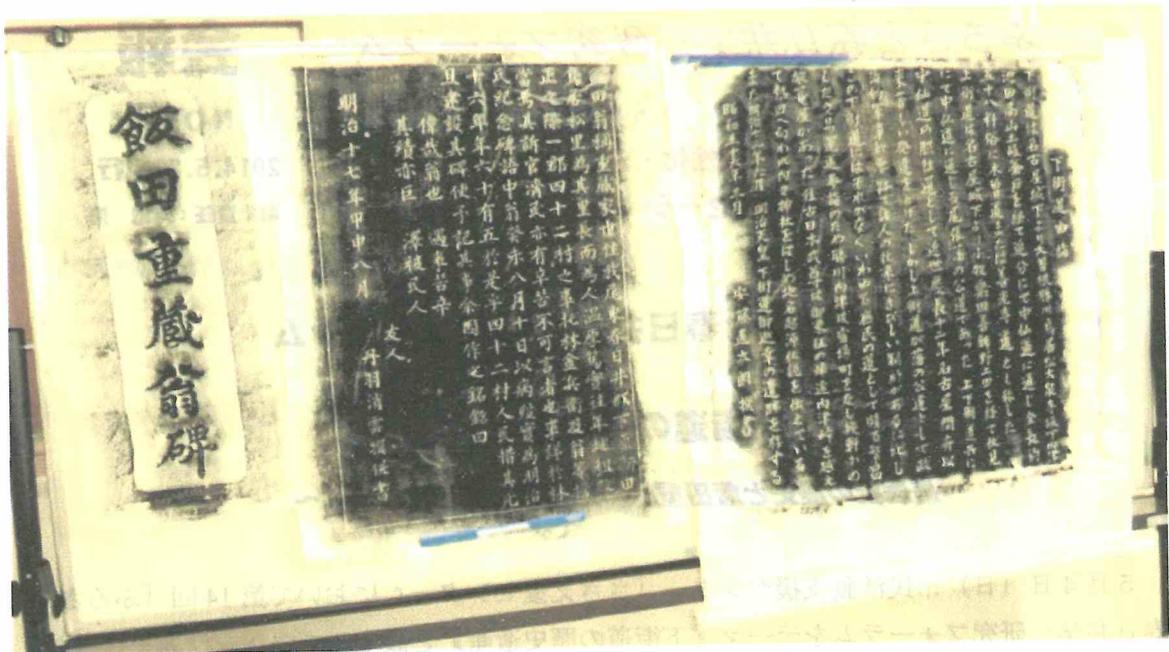
発表後活潑な質疑も行われ、閉館になっている「郷土館」についての今後に関する質問が多く出された。



発表者：近藤 雅英 氏



発表者：村中 治彦 氏



「飯田重蔵翁碑」拓本

「下街道由緒碑」拓本

春日井市立「郷土館」と下街道は、 地域活性化のシンボル！

現在鳥居松町に所在する「春日井市立郷土館」は、耐震基準を満たさないとの理由で閉館されている。この建築物は、幕末頃に建てられた、この地の地主で酒造家飯田重蔵家の別邸である。

歴史建造物である。この建物は、下街道という歴史街道に位置しているのでこの地域の人たちに近代の歴史を色々と伝えてきている。庶民街道としての宿場町でもあったので、多くの文人、墨客も往来した。俳人横井也有もそのひとりである。明治維新には国家的事業近代税制改革（地租改正）の進行をめぐって地域の人々は生活の危機を賭けて慌ただしく往来した。この地の村落指導者林金兵衛と福澤諭吉との運命的な出会い。そして、官との対峙に苦悩する林金兵衛、飯田重蔵等が活動の拠点とした、街道である。

明治という新時代の国づくりは、明治天皇の全国巡幸で一步一步前に進んでいった。明治天皇は中山道からこの下街道へ、そして、飯田重蔵別邸（現郷土館）に休息をされた。等々、歴史ある街道である。

こうした歴史は、地域の共通の財産であり、歴史資産である。「歴史を大切にするものに未来があり、疎かにするものに未来はない」の教訓のごとく、保護・保存すべきはし、伝えるべきは伝えて行くことを怠る地域に活性化も未来もないと言える。

今、諸々の事情で死に体となってしまっている、歴史ある「郷土館」、下街道のシンボル

「郷土館」を保護保存をしないで、地域の特色も活性化もないと考えます。市民も、行政も地域も将来を見据えて考える時、次代の人々の為に決断するときが来たと言えます。

新しい時代に則した施設づくり、地域創りの拠点となるような存続を期待したい。地域の理解と、地域創りへの意欲が今こそ問われていると思います。地域の活性化の必要条件は、歴史性、文化性、精神性であることを考えた時、特色ある文化の臭いがする地域の新しいコミュニティーの場として、新しい郷土館づくりで地域再生を計ってもらいたいと願うばかりであります。

地域再生と、地域活性化を考える問題として提起したい。

「郷土館」解説

本館は春日井市制三十周年を記念して開館したものであります。本市においては、かねてより文化財の保護につとめてまいりました。すでに春日井市史も刊行され、市民の皆さんに郷土の歴史と文化財の愛護についてあらゆる機会に呼びかけて来ましたが、ここに由緒ある旧施設を補修して郷土館を設置し、郷土文化の伝統と創造に資することに致しました。近年郷土館は各地に建設され、一般庶民の生活文化の歴史を一目理解するためにも民族・民具の収集と展示がなされる傾向にあります。本市においては、市民意識を背景に、市民のために、市民の手によって、この郷土館が、さらに充実してゆくことを願いたしたいと存じます。

一、本館建物の沿革

この建物は、江戸期末期安政三年の建造で、当地の酒造家飯田重蔵氏の離れ座敷であります。したがって民家としても当時の遺構を伝えております。明治十三年六月三十日、明治天皇が民情御視察のため東京より中仙道を経て京都にご巡幸の途次、下街道における御小休所となった建物であります。その後建物の一部に変更がございましたが、おおむね原型を保持しております。建物および敷地の所有者も変遷がありましたが昭和十三年十二月二十七日、時の篠木村長藤田三郎氏が遺跡保存のため所有者、大垣共立銀行より買収して村の管理下におき、ついで史跡として文部省の指定を受けたものであります。昭和十八年春日井市制施行に伴い、市に移管して今日に至りました。

郷土館の在り方について

資料の収集と展示の方法等について、つねに新しい角度から検討さるべきで、ただ古物を並べるといったものではないと考えます。市民の生活と直結した血の通ったもので、郷土文化の伝統を知ると共に、新しい市民文化の創造に役立つものであって欲しいと思います。

本館は、まだ緒についたばかりでありますので、その整備充実と活用は、今後幾多の

課題をもっております。本館は、その立地条件の上からも、明治、大正期を中心にしかも下街道文化の紹介につとめ、さらに市内の民族資料、埋蔵文化財、古記録、古文書の収集につとめ一般市民の皆さまに親しんでいただける郷土館に致したいと存じますので、今後とも市民各位の深い御理解とご協力をお願いする次第であります。

(昭和四十八年六月十五日) 春日井市立「郷土館」のしおり より抜粋



「郷土館」前に植樹された「松」

現在の「郷土館」全景



「松」植樹祝賀会で挨拶する「ふるさと春日井学」研究フォーラム会長 河地 清氏



植樹したクロマツを眺める下街道サミットのメンバーら。春日井市鳥居松町で

「下街道」PRへ団結

現在の春日井市などを通り、名古屋城下と中山道大井宿手前の楓ヶ根遺分(岐阜県恵那市)を結んだ「下街道」。江戸時代に栄えた半面、知名度に欠ける街道をアピールしようと、愛知、岐阜県の沿道5市の6つの市民団体が「下街道サミット」を結成した。その一つ、春日井市文化財友の会の村中治彦会長は「連携を深め、下街道が育んだ歴史、文化を発信したい」と力を込める。

(蓮野雄耶)

下街道は約十七、江戸時代には、富良が熱田神宮や伊勢神宮に参拝するために往来し、にぎわった。「歴史はあるのに知らない人が多い」。沿道の各市では知名アツツを図ろうと、市民団体がそれぞれに講演会を企画するなどPRに努めてきた。

そうした中、昨年八月、旗揚げされたのが「下街道サミット」。岐阜県多治見市の市民団体「多治見観光ボランティアガイド」の呼び掛けで、春日井市文化財友の会や恵那、瑞浪、土岐市を含む5市の6団体が結成。沿道が手を結ぶことで、下街道の歴史や人の流れ、人々の生活などを多角的に下街道の魅力を伝えられると考えた。

結成後、最初に取り組んだのは下街道のウォーキング。昨年九月、十二月、全体を七回に分けて歩き、毎回、三十人ほどが街道にある史跡を巡った。街道の整備を進める

春日井など 沿道5市の6団体サミット

ため、神社や史跡など沿道の十カ所に植樹し、その脇に下街道の歴史を記した案内板を設置することも決めた。

今月上旬には、第一号として、街道沿いにある春日井市鳥居松町の市立郷土館の敷地にクロマツを植樹。「鳥居松」の由来を記した案内板も設置した。「鳥居松」という地名に、松(神社)の鳥居が立っていたという由来があることにちなみ、村中さんが発案した。

十三日に開いた記念式典には、下街道サミットのメンバー約三十人が参加。植樹されたクロマツが披露され、6団体の連携を確認した。今後、下街道を地域の活性化につなげていこうと広域的に活動を続ける。

五月には、春日井市内津町の内々神社にキンモクセイを植樹した。多治見市や土岐市でも植樹を進める。

村中さんは「下街道は春日井市だけでなく、沿道各市の財産。これまでに、多くの人に下街道を知ってもらいたい」と話している。

ため、神社や史跡など沿道の十カ所に植樹し、その脇に下街道の歴史を記した案内板を設置することも決めた。

今月上旬には、第一号として、街道沿いにある春日井市鳥居松町の市立郷土館の敷地にクロマツを植樹。「鳥居松」の由来を記した案内板も設置した。「鳥居松」という地名に、松(神社)の鳥居が立っていたという由来があることにちなみ、村中さんが発案した。

十三日に開いた記念式典には、下街道サミットのメンバー約三十人が参加。植樹されたクロマツが披露され、6団体の連携を確認した。今後、下街道を地域の活性化につなげていこうと広域的に活動を続ける。

報道記事 (「中日新聞」2014.4.15)

平成25年下街道沿線5市(恵那、瑞浪、土岐、多治見、春日井)の民間団体でした街道サミットが結成され、互いに連携してした街道の活性化に取り組まれました。「鳥居松」の由来に因み、この「松の樹」が植樹されました。4/13(日)植樹祝賀会が開催されました。

OPINION—「ふるさと意識」なくして地域の活性化なし—

「富岡製糸場」が世界産業遺産に登録されるというニュースは、大変ビッグな出来事である。「歴史遺産」を保護し保存するという営みは、後世に生きる者の当然の努めでもある。とは言っても、地域によっては、現実には、「何だかんだ」と理由がついて大切な「歴史遺産」の多くは、風化、劣化、破壊、消滅という運命を辿るものが後を絶たない。理由の中には、万止むおえないものもあるが、「何とかならなかったのか」というものも多くある。千年、500年、存在し続けてきても、消滅してしまえば、二度と元へはもどらないというのが歴史である。「知りて過ちを犯す」(P.F ドラッカー)ことを極力なくしていかねばならない。

「下街道」という歴史ある景観の中に必死に老体を支えて建っている、「春日井市立郷土館」も消滅してほしくない歴史建造物の一つである。

建造物としての個別の価値が基準を満たさないというだけの、狭い発想ではなく、長い間地域の人々に愛され、親しまれ、愛着をもって見守られてきた存在にこそ、大きな価値を見い出さなければならないという発想が大切である。瀟洒な箱物を一つ造る前に、立ち止まって考える余裕が今は大切である。「消滅してしまったら元には戻らないのが歴史である」「まちづくり」は、知恵を出して、地域の自然、歴史、文化を守る活動でもあるのです。

次回 FORUM のお知らせ

第 15 回テーマ『春日井の戦争遺構』

日 時：平成 26 年 6 月 1 日（日）13:30～15:30

場 所：市民活動支援センター『ささえ愛センター』八幡小西 2 階第一集会室（TEL0568-56-5451）

フォーラム内容：

① 「ふるさと春日井・軍都の時代」

発表者：金子 力 氏（郷土史研究家）

第 16 回テーマ『春日井の自然を護る』

日 時：平成 26 年 7 月 6 日（日）13:30～15:30

場 所：市民活動支援センター『ささえ愛センター』八幡小西 2 階第一集会室（TEL0568-56-5451）

フォーラム内容：

① 「ふるさと春日井—流域絶滅危惧種を護る—」

発表者：小川 茂徳 氏（淡水魚研究家）

② 「ビオトープで蜚の飼育活動」

発表者：野田 叔人 氏（春日井ビオトープの会会長）

「ふるさと春日井学」関連書籍

会員著作の出版物を紹介してゆきます。

※近藤 雅英『小説林 金兵衛（地租改正嘆願始末記）春日井の空、鐘は鳴らすな』羅針社

※河地 清『福沢諭吉の農民観—春日井郡地租改正反対運動—』日本経済評論社

※金子 力・工藤洋三『原爆投下部隊—第 509 混成群団と原爆・パンプキン—』

ご希望の方は、事務局までお申し出下さい。

かすがい市民活動情報サイト：<http://kasugai.gonki305.net/>

ふるさと春日井学 